
建築士としての証

— 一級建築士 —

1. はじめに（受験の動機・経緯）

受験動機は職場の先輩への憧れからでした。その方は発言に「自信」があり、周りからの「信頼」も厚く、まさに私の模範とする建築士であり、その方から「建築の道を歩む者として建築士の証（一級建築士）を持って」との助言をいただき、受験を決意しました。

1級建築士の試験は、合格率が低く、年々難易度が高くなっており、試験に合格するためには効果的・効率的な学習が重要となります。そこで、私の学習方法、学習ポイントや試験に向けての心構え等を簡単にご紹介したいと思います。

参考に私の合格までの実歴は以下のとおりです。

【1年目（平成29年度）】

学科試験：合格（独学）

製図試験：不合格（独学）

【2年目（平成30年度）】

製図試験：合格（資格学校）

2. 学科試験対策

学科試験は、計画・環境・法規・構造及び施工の全5科目で構成されており、科目毎に合格基準点があることから、建築士としての総合力が求められる試験となっています。

私は、科目毎に教科書や参考書などの内容を調べながら閲読し、原理・原則を理解することから始めました。これにより過去問題への読解力はもちろん、新規問題への応用力も養うこと

ができました。一方、この方法には多くの時間が必要となるため、私は受験年度の2年前から早朝やお昼休憩、休日等の空き時間を見つけ、平日は4時間、休日は12時間、学科試験の勉強に励みました。

また、この長期的な学習方法で重要なことは、「試験のための学習ではなく、実務のための学習をする」という意識を常に持つことでした。その結果、より実践的な知識として身に付き、日々の業務への理解力及び正確性の向上、さらにはその成果がモチベーションアップにつながり、良い相乗効果（学習サイクル）を生み出すことができました。

3. 製図試験対策

製図試験は事前に課題が発表され、当日与えられる条件を満たしていることを前提に、出題者の要求を読み取りながら建築物の設計及び作図を行うことで、記述力や図形の表現力、建築物の構造や設備に関する知識を評価するより実践的な試験となっています。

しかしながら、いかに良い設計（エスキス）をしても、限られた時間内に作図することができなければ、合格することはできません。そのため、私は、「作図力強化」を目標に、1年目は学科試験後から製図試験までの間に計60枚の図面を書き上げ、作図時間を6時間から3時間に短縮させました。

一方、1年目は独学であったため、課題傾向の分析や自作での条件設定等に変苦勞しました。その結果、図面は完成したものの、課題文の重要事項の読み落としやエスキス力不足が響き、不合格となってしまいました。また、試験当日は会場の雰囲気のみ込まれてしまい、手が震え、冷静な判断力や平常心を保つことができませんでした。

1年目での失敗を糧に2年目は資格学校に通いながら「課題文の読み取り」及び「エスキス」を中心に学習に励みました。学校では課題傾向や採点ポイント、作図テクニック等の指導に加え、模擬試験も充実しており、総合力を高めることができました。さらに、同じ志をもった仲間ができたことで、1年間モチベーションを保つことができました。

参考に私の製図試験での時間配分をお伝えします。ポイントは「見直し」を3回行ったところでした。

- ①課題文の読み取り：15分
- ②見直し（1回目）：5分
- ③エスキス：100分
- ④見直し（2回目）：10分
- ⑤要点記述：50分
- ⑥作図：180分
- ⑦見直し（3回目）：30分

4. おわりに

最近の製図試験では、社会情勢や地域課題に対して、建築士としての的確なコンセプトを定め、なおかついかに創意工夫のある提案・設計ができるかが問われています。そのため、日頃から建築のことだけでなく、様々な分野に興味関心を持つことも大切だと思います。その知識・経験が柔軟な発想への手掛りとなり、自らのアイ



広島市 市民局
生涯学習課 技師

なかむら あきら
中村 明

（取得した資格：一級建築士）
（資格取得年度：平成30年度）

デアの幅が広がり、試験当日の突発的な課題にも動揺することなく、設計することができると思います。

また、一級建築士取得という最終目標はもちろん大切ですが、合格に向けて学習するプロセスが最も重要であり、日々の学習で得た知識が建築士としての「自信」になっていきます。建築士としてこれほど心強いものはありません。

最後になりましたが、受験される方々がおかれている状況は、仕事をしながら、家事や育児をしながら等、各人各様だと思います。その中で共通していえることは、「いかに学習時間を確保するか」だと思います。そして、それには周りの方の協力が不可欠です。私自身、職場、家族、友人等の多大な支えがあったからこそ、念願の資格を取得することができました。

この場を借りて深く御礼申し上げます。